

16. 抄録目次

特別企画目次

○特別講演（公開） <第1日目（5月16日） 第1会場 13：45～14：45>

司会：堤 玲 子（第64回日本医学検査学会 実行委員長/小城市民病院）

心と体にやさしい重粒子線がん治療－サガハイマットの現況と展望－……………工 藤 祥

○招待講演Ⅰ（公開） <第1日目（5月16日） 第1会場 15：00～17：00>

肝炎治療における臨床検査技師の役割について－肝がん死亡率1位からの脱却－

司会：尾 崎 岩 太（佐賀大学医学部保健管理センター/佐賀県肝疾患対策委員会）

佐賀県における肝疾患対策と課題

～肝がん死亡率1位からの脱却を目指す佐賀県の取組について～……………前 山 恵士郎

全例治癒を目指した肝炎治療における臨床検査技師の役割とは

－佐賀県肝がん対策プロジェクトから－……………江 口 有一郎

○招待講演Ⅱ <第1日目（5月16日） 第9会場 11：00～12：00>

司会：中 山 稔（佐賀県医師会成人病予防センター）

古 賀 秀 信（飯塚病院）

日本人の生活習慣病の過去・現在・未来：久山町研究……………清 原 裕

○学会長講演 <第2日目（5月17日） 第1会場 9：00～9：30>

司会：長 迫 哲 朗（一般社団法人福岡県臨床衛生検査技師会 特別参与）

「葉隠に見る検査道」－武士道とは死ぬことと見つけたり－……………百 田 浩 志

○文化講演（公開） <第2日目（5月17日） 第1会場 14：00～15：30>

司会：百 田 浩 志（第64回日本医学検査学会 学会長/社会福祉法人 済生会唐津病院）

走りながら考え常識を覆す ～人生は一度だけ、勇気を出そう……………樋 渡 啓 祐

○学会特別フォーラム <第1日目（5月16日） 第1会場 9：30～12：00>

時代が求める風になれ

司会：下 田 勝 二（一般社団法人日本臨床衛生検査技師会 常務理事）

奥 田 勲（株式会社LSIメディエンス/日臨技医療政策WG委員/メディカルスタッフ業務推進WG委員）

1. チーム医療の推進と臨床検査技師に求められる役割（行政の立場から）……………北 澤 潤

2. これから求められる医療人とは……………堺 常 雄

3. チーム医療 看護師と臨床検査技師……………中 畑 高 子

4. パラダイムシフトは自らの手で……………宮 島 喜 文

○シンポジウム（日本臨床検査医学会共催） ＜第1日目（5月16日） 第9会場 13:30～15:00＞

「臨床検査技師が取り組む新たなチーム医療」－メディカルスタッフ（病棟・外来など）としての参画－

司会：諏訪部 章（日本臨床検査医学会 常任理事／岩手医科大学）

宮 島 喜 文（一般社団法人日本臨床衛生検査技師会 会長）

病棟での実践例……………飯ヶ谷 奈央子

救命救急センターにおける臨床検査技師の役割……………福 岡 京 子

「チーム医療」推進に向けた日臨技の取り組み

「臨床検査技師のためのチーム医療技術教本」に込めた思い

～開かれた臨床検査科と私たちのあり方……………畑 中 徳 子

「メディカルスタッフ業務推進WG」経過報告……………丸 田 秀 夫

「病棟業務検証委員会」経過報告……………深 澤 恵 治

○日臨技企画 国際パネルディスカッション ＜第1日目（5月16日） 第9会場 9:30～11:00＞

臨床検査・技師の国際化を考える

司会：長沢 光章（一般社団法人日本臨床衛生検査技師会 国際担当執理事務／東北大学病院）

1. 挨拶－日臨技の取り組み……………宮 島 喜 文

2. 臨床検査技師のグローバル化を考える……………小 松 京 子

3. 臨床検査技師制度の海外事情……………坂 本 秀 生

4. JICAの経験と現状……………橋 本 尚 文

5. 国際学会に参加して……………菊 地 良 介

6. ポストクリサーチフェローとして米国USC & CHLA 留学の経験から……………大 楠 清 文

○国際学生フォーラム ＜第2日目（5月17日） 第9会場 11:00～12:30＞

司会：坂 本 秀 生（神戸常盤大学）

1. Medical Technologists and Future Hope for Patients of Incurable Diseases……………北 睦 実

2. In order to be a biomedical laboratory scientist who can succeed overseas……………寺 嶋 駿

3. What should we do for international laboratory development?……………余 村 求

4. 韓国学生（未定）

5. 韓国学生（未定）

○パネルディスカッション（日本検査血液学会共催）

＜第2日目（5月17日） 第9会場 9:00～11:00＞

末梢血標本における好中球系細胞の新しい判定基準について

－血球形態標準化合同ワーキンググループが目指す標準化事業の全国展開－

司会：渡 邊 眞一郎（藤沢市民病院）

坂 場 幸 治（株式会社ピーシーエルジャパン病理・細胞診センター）

1. 好中球系細胞標準化の経緯と血球形態標準化合同ワーキンググループについて……………渡 邊 眞一郎

2. バーチャルスライド・健診検体・SIRS症例を用いたstab, seg新基準の検証……………山 口 孝 一

3. 検査現場での捉え方と形態学検査のあり方……………志 賀 修 一

4. 基準範囲の統計処理の立場から……………山 本 慶 和

○教育講演 <第2日目(5月17日) 第1会場 11:30～12:30>

術中モニタリング入門と応用－手術への臨床検査技師の関わり－

司会：高 橋 修（市川市リハビリテーション病院）

1. 術中モニタリングの現状と医師が臨床検査技師に望むこと……………齋 藤 貴 徳
2. 術中モニタリングにおける臨床検査技師の現状と将来……………丸 田 雄 一
3. 当院におけるチーム医療－術中神経機能モニタリングと技師の関わり－……………高 谷 恒 範

○精度保証セミナー <第2日目(5月17日) 第13会場 9:00～10:00>

検査情報の共有を目指す

司会：岩 上 みゆき（一般社団法人日本臨床衛生検査技師会 精度保障担当執行理事/館林厚生病院）

すべての医療機関で共用基準範囲を利用する－検査情報の共有を目指すために－……………山 本 慶 和
免疫血清検査におけるハーモナイゼーションについて……………齋 藤 篤

○教育講演Ⅰ 血液 <第1日目(5月16日) 第2会場 13:30～14:50>

司会：常 名 政 弘（東京大学医学部附属病院）

血液形態診断にエビデンスを求めて……………阿 南 建 一

○教育講演Ⅱ 微生物 <第1日目(5月16日) 第7会場 13:30～15:00>

司会：永 沢 善 三（国際医療福祉大学）

微生物検査の変遷と将来の課題……………小 栗 豊 子

○教育講演Ⅲ 公衆衛生（公開） <第1日目(5月16日) 第12会場 13:30～15:00>

司会：森 屋 一 雄（佐賀県唐津保健福祉事務所）

感染症から守ろう！子どもと高齢者、そして私も！予防接種大切です……………多 屋 馨 子

○教育講演Ⅳ 生理 <第2日目(5月17日) 第4会場 9:00～10:00>

司会：阿 部 美 智（佐賀県医療センター好生館）

肝がん検診活動を通した社会貢献を目指して～超音波検査士としてできること～……………樋 口 竹 広

○教育講演Ⅴ 輸血 <第2日目(5月17日) 第6会場 11:30～12:30>

司会：友 田 豊（旭川医科大学病院）

ICTとアナログシステムの融合による新しい輸血部体制の構築

－プログラム、システム、ネットワーク……………末 岡 榮三朗

○教育講演Ⅵ 病理 <第2日目(5月17日) 第10会場 11:30～12:30>

司会：森 大 輔（佐賀県医療センター好生館）

個別化医療に向けた病理分野における分子病理診断解析への応用……………郡 司 昌 治

○シンポジウムⅠ 微生物 <第1日目(5月16日) 第8会場 15:30～17:20>

結核の院内感染対策と新しい治療法

司会：田 尾 義 昭（国立病院機構福岡東医療センター）

1. 当院における院内感染対策 結核について……………坂 本 徳 隆
2. 結核の院内感染対策 ～QFT、T-スポット～……………福 島 喜代康
3. 多剤耐性肺結核に効能を有する新規治療薬－デルティバー……………松 本 真
4. 多剤耐性結核の新規治療用DNA ワクチンについて……………岡 田 全 司

○シンポジウムⅡ 一般 <第1日目(5月16日) 第9会場 15:50～17:20>

尿検査から考える病態

司会：山下 美香 (JA広島総合病院)

亀山 広喜 (熊本保健科学大学)

1. 尿沈渣検査でここまでわかる……………宿谷 賢一
2. 尿路感染症の考え方……………佐々木 正義
3. 異型細胞関係……………佐伯 仁志

○シンポジウムⅢ 病理 <第1日目(5月16日) 第10会場 15:40～17:20>

病理検査業務の効果的な運用について

司会：川崎 辰彦 (佐世保共済病院)

中村 光男 (佐賀大学医学部附属病院)

1. ペーパーレス化を目指した病理システムの構築……………久米 修二
2. 病理検査におけるバーコード管理……………徳永 英博
3. 院内電子カルテ・バーチャル病理画像システム - 5年間の運用経験……………伊藤 智
4. ISO15189取得後の運用について……………片岡 直

○シンポジウムⅣ 臨床化学 <第2日目(5月17日) 第12会場 10:50～12:30>

臨床化学を志す人は何を指すか? - 臨床化学力を伸ばすために -

司会：栢 森裕三 (九州大学)

池田 弘典 (佐賀大学医学部附属病院)

1. 学位取得は新たな未来へのジャンプ台……………川上 保子
2. 認定臨床化学者及び精度保証認定技師制度の推進する立場から……………大澤 進
3. 分析の組み立てを知る……………藤本 一満
4. 認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師への期待……………横地 常広

○パネルディスカッションⅠ 血液 <第1日目(5月16日) 第2会場 15:00～17:20>

九州から発信するHTLV-I感染(症)の今

司会：寺原 孝弘 (済生会日向病院)

牟田 正一 (国立病院機構 鹿児島医療センター)

1. HTLV-Iとその検査法……………梅木 一美
2. ATL診断に有用な表面マーカーについて……………鶴田 一人
3. HTLV-I感染(症)の今……………末岡 榮三朗

○パネルディスカッションⅡ 生理 <第2日目(5月17日) 第5会場 14:00～15:30>

血管診療におけるチーム医療

司会：富田 文子 (済生会熊本病院)

鐵井 博昭 (熊本労災病院)

1. 患者の訴えを理解する ～下肢切断になると脅さないで！健康寿命延伸のための検査とは～……………中島 里枝子
2. 医師の求めを理解する ～医師へのより良きデータの提供を目指す～……………中野 明子
3. 地域の医療を理解する ～下肢救済への看護と連携 CVT ナースとして……………溝端 美貴

○ラウンドテーブルディスカッション <第2日目(5月17日) 第9会場 14:00～15:30>

若手技師セミナー

司会：町 田 幸 雄（日本医科大学千葉北総病院）

友 松 哲 夫（一般社団法人福岡県臨床衛生検査技師会 会長）

1. 私が目指す臨床検査技師とは……………小 原 加奈代
2. 未来の臨床検査技師……………浜 谷 雄 樹
3. わたしの未来予想図……………小 澤 晃
4. 現状打破……………中 川 光
5. 世界の医療をリードする臨床検査技師を目指して……………松 尾 英 将
6. 旬の走り ～無限の道～……………西 村 恭 輔
7. 私が考える臨床検査技師の3つの未来……………牟 田 誠 矢

○学会特別企画 <第2日目(5月17日) 第1会場 9:30～11:30>

Reversed Clinicopathological Conference (R-CPC)

司会：横 田 浩 充（東邦大学理学部教育開発センター）

正 田 孝 明（医療法人仁友会 南松山病院）

出題者・コメンテーター：矢 富 裕（東京大学）

解説者：嶋 田 昌 司（公益財団法人天理よろづ相談所病院）

菅 野 光 俊（信州大学医学部附属病院）

常 名 政 弘（東京大学医学部附属病院）

草 場 耕 二（佐賀大学医学部附属病院）

水 上 尚 子（鹿児島大学病院）

○微生物症例カンファレンス <第2日目(5月17日) 第7会場 10:00～12:30>

司会：松 田 淳 一（長崎大学病院）

大 隈 雅 紀（熊本大学医学部附属病院）

1. 症例から学ぶ感染症診療……………福 岡 麻 美
2. 感染症の症例検討……………曲 渕 裕 樹
3. 症例検討 ～グラム染色からのアプローチ～……………永 田 邦 昭